



2024

学校だより **本荘** *Smile*

令和6年度 第24号
令和6年9月11日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

1, 2年生みんな並んでシャボン玉。大事なことは、こどもに考えさせることです。それが学びです♪



ずらっと並んだ1, 2年生。何をしているのかといきますと、「しゃぼん玉」に挑戦しています。1, 2年生合同の生活科の学習です。みんなしゃぼん玉遊びに熱中しています。大変楽しそうですね。

生活科は、低学年にとって大切な学習です。学習指導要領では、生活科の意義を、

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

としています。つまり、遊びなどの活動を通して、必要なスキルを身に付け、自立できるように学習するのです。

生活科には「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」という内容があります。この学習では、身近にある自然や身近にある物を使って、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることが主な活動となっています。そして、その過程を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることを目指しているのです。(裏面へ)

この授業でいうと、友達とともに、シャボン玉遊びを楽しむことができる。ということが大事！というわけです。さらに、シャボン玉遊びを工夫したり、友達に工夫したことをわかりやすく教えたりすることができるということも重要なポイントなのです。さらには、シャボン玉遊びを通して、シャボン玉液や、シャボン玉を作る道具は、身の回りにあるもので工夫できることを自ら学び取っていくのです。そうやって自立への基礎を養っていくのです。やはり教科の学習は考え抜いてあるのです。

そこに、今回1、2年生のシャボン玉を取り上げた理由があります。一見、ただ遊んでいるような授業にも、教科としての明確なねらいがあるということを知っておいていただきたかったからです。学習の中で、こどもたちが何を学ぶべきかをご家庭と学校がしっかり共有しておく、こどもたちの学びの支援につながるはずで

「学びに向かう主体性」という言葉は、とても大切にしたいフレーズです。しかし、「主体性」を育てるからといって、こども任せにしてよいものではありません。そこにはまわりの大人の支援、サポートが必要です。

つまり、私たち本荘小学校の職員は、教育のプロとしてこどもたちにきちんと「資質・能力」を身に付けさせなければなりませんし、ご家庭でも賞賛の声かけ等、意欲向上のためのご支援等いただけたら幸いと思ひまして、今回のテーマにしております。よろしくお願い致します。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「サム先生がやってきた!みんな大喜び」



2 学期より赴任されたALTのサミュエル先生です。これからサム先生と呼ぶことになりそうです。アイルランドからやってこられました、日本語もお上手です。日本の漫画とアニメが大好きということです。みんなも喜んでいました。